

筑波大学の芸術資産活用による「創る・観る・知るアート・デイキャンプ」の実施

夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊

代表者：太田 圭(芸術系・准教授)

分担者：玉川信一(芸術系・教授) 内藤定壽(芸術系・教授) 藤田志朗(芸術系・教授)
石崎和宏(芸術系・准教授) 田島直樹(芸術系・准教授) 福満正志郎(芸術系・准教授)
仏山輝美(芸術系・准教授) 程塚敏明(芸術系・准教授) 山本浩之(芸術系・講師)
協力者：宮城正作(芸術系・研究員) 大学院学生 芸術専門学群学生

- 背景：小学校の図画工作、中学校の美術、高等学校の芸術(美術)では、授業時間数の関係から、長い時間をかけて物を観て描くことや、実物の作品を鑑賞するといった、表現力、創造力、感受性などを育む経験をするのが難しくなっている。
- 目的：筑波大学で芸術に関わる人的資産(教員・学生)と、芸術資産(学内の展示作品)を活用し、「制作と鑑賞」のプログラムを通して、子どもたちの創造的で豊かで自由な心を持つ人間形成に寄与したいと考えた。
- 実施内容：本プロジェクトは「創る・観る・知る」の3つのキーワードに基づいたプログラムを芸術系教員が企画立案し、つくば市、つくば都市振興財団、筑波大学芸術地域貢献推進室が主催、つくば市教育委員会が後援するという体制で実施した。また、プレ戦略の「未来の子ども育ち研究支援センターの創設」とも連携をとって実施した。
- ①「アート・デイキャンプ」：体芸エリア5C 棟にある大石膏室を会場とした作品制作プログラムで、実物大のダビデ像やニケ像などの大型石膏像のほか、金魚や鉢植え植物、季節の果物などの静物をモチーフとして写生した(8月6日、7日)。
 - ②「夏休みアート・デイキャンプ 2011 展」：アート・デイキャンプで制作した作品による展覧会を開催し、応募作品の中から優秀作品を表彰した(審査委員長：山本文彦筑波大学名誉教授：洋画家。審査員：芸術系教員2名)。応募された全作品と特別参加の父母や未就学児の作品、計 165 点を本学総合交歓館多目的ホールに展示した(8月24日～30日)。
 - ③「アートたんけん隊」：本学の屋内外に展示されている芸術作品を鑑賞するプログラムで、大学院生が用意した「鑑賞探検ツール」(目隠し鑑賞クイズ、なりきり鑑賞)や、アトリエ見学を行って学生との対話を楽しんだ(8月6日、7日)。
- 成果：「夏休みアート・デイキャンプ」は4年目であったが、毎年参加者は増加し、本学の芸術が提供する夏のイベントとして認知されつつある。今回の参加者数は、「アート・デイキャンプ」182名(小学校1・2年生73名。3・4年生48名。5・6年生32名。中学生18名。高校生11名)、「アートたんけん隊」30名であったが、一番の成果は、空調設備の壊れた暑い大石膏室で、汗を拭きながら絵を描いている子どもたちの真剣なまなざしと、絵や彫刻を見てまわる時の驚いた顔や楽しそうな笑顔を見ることができたこと、そして参加者が「また描きたいな」と言いながら帰路についていただいたことである。しかし本当の成果が出るのは「これから」である、つまりこれはアートによる子どもたちのための「IMAGINE THE FUTURE」プログラムであったといえよう。

